

ちば里山新聞

ちば里山新聞は千葉県からの委託事業を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

(第36号)

編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓 2号 580-148
電話 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

「東日本大震災」は、これまでに経験の無い甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。ともに復興に向けて努力していきましょう。

平成25年度地球環境基金助成事業

「ちば里山カレッジ」開催

広く参加を促し、里山活動に活力と未来を リーダー養成コースを含め3年計画

千葉県の里山の保全・再生・利活用の促進を図るための千葉県里山条例が他県に先駆け制定され今年で10年になる。

その間、里山活動団体による各種活動が推進されてきたが、その活動を継続する為の課題として、メンバーの高齢化・会員数の減少および後継者不足が大きな課題としてクローズアップされてきた。

これら課題に対応する為、ちば里山センターとして「3カ年計画 ちば里山カレッジの開催」を企画し平成25年度地球環境基金助成事業に申請した結果、その3カ年計画が承認された。

その概要は、「里山ボランティア養成コース」を平成25年～27年に県中部、北部、南部地区で各地区1回計3回開催し、「次世代リーダー養成コース」を平成26年千葉市で、平成27年船橋市で開催予定。

平成25年度は「里山ボランティア養成コース」開催の助成が決定し、9月14日開校に向けて鋭意準備を進めている。

本企画は行政及び会員活動団体との協働を目指しており、既に千葉県をはじめ開催地域の千葉市、市原市、木更津市、君津市、富津市から後援の承認をいただいている。

会員活動団体の皆さまにも、研修フィールドの提供、受講者募集などご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

今年度は「里山ボランティア養成コース」がスタートします

- ◆開 催 25年9月14日(土)～26年2月22日(土)の期間で計10回
- ◆募 集 30名(Max50名)先着順 但し10回の講座に出席し、里山活動を希望する方
- ◆応募締め切り 8月末日
- ◆受講料 一般;10,000円 学生:5,000円
- ◆主 催 特定非営利活動法人ちば里山センター
- ◆申込・問合せ 特定非営利活動法人ちば里山センター

TEL 0438-62-8895 E-mail: info@chiba-satoyama.net

カリキュラムなど詳細は6ページをご覧ください。

みなさまの参加で
ちばの里山を元気にしよう!



さとやまクローズアップ

第 10 回里山シンポジウム開催 (当日参加者 200 名。)

平成 15 年千葉県条例第 5 号。以下里山条例という。里山条例を記念する里山の日 (5 月 18 日) に開催されました。第 10 回のテーマは「これまでの 10 年、これからの 10 年」プレシンポジウムは①～④のテーマ。

- ① 野生動物・地域など「基盤サービス」 ② 森林・林業・食糧など「供給サービス」
③ 水資源・汚染物質・ゴミなど「調整サービス」 ④ 医療福祉・教育・芸術・観光など「文化サービス」

記念講演『環境革命の時代が』—里山と都市その現代的価値を巡って—

涌井史郎 (雅之) 東京都市大学教授 国連・生物多様性の 10 年国内委員会・委員長代理

千葉テレビ 取材



ちば里山センター事務所にて取材を受ける、金親理事長



風呂の前里山保存会現地取材取材を受ける中山代表

多くの里山活動団体の活動が注目され、テレビや地域情報誌に取り上げられています。一部をご紹介します。

酒々井里山フォーラム

ちいき新聞 (佐倉東・酒々井版) 読売新聞 6/6 市原米沢の森を考える会

「ぐるぐる京葉」情報誌 Vol3 季刊まちづくり 38

風呂の前里山保存会 千葉テレビ

ちば里山センター 千葉テレビ, 季刊まちづくり 38, 「ぐるぐる京葉」情報誌 Vol3 など。



里山巡回相談 (その 3)

＝八木が谷市民の森＝

千葉県森林研究所 福島 成樹



拾いや下刈りが中心とのことで、隣接する小学校の児童たちと協働清掃を行ったり、近隣住民が気持ちよく利用できるように森を整備しているとのことでした。

相談の内容とアドバイス

基本的な森の手入れについては、林内の利用を中心に考えると、散策や体操といった利用方法に合わせて下刈りによる景観管理を行うとよいと思います。特に、見とおしに影響が大きい低木層を管理の対象としますが、すべて刈り払うのではなく一部は目隠しとして活用することも有効です。

植樹については、森全体が大きな木に覆われているため、苗木を植栽してもなかなか育たないと思われます。また、遺伝子かく乱を防ぐために、ほかの地域から植栽木を持ってくることはなるべく避けてください。

木に絡みつ়ツルについては、木が大きいために幹にツルが絡みついても成長にはほとんど影響ありません。また、ツルの除去方法は、木の根元付近でツルを切断すれば十分で、幹からはがす必要はありません。

小学校の児童が森に親しめるお勧めの作業としては、広葉樹の落ち葉を集めて落ち葉のプールを作る、大地に寝転んで樹冠を見上げるといった活動を提案しました。

最後に、八木が谷北市民の森のような高齢の森では、現地でも見られましたが時々大きな枯枝が落下してきます。これは、樹木の性質上仕方がないことですが、下に人がいると大きな事故につながる可能性があります。そこで、強風時には林内に立ち入らないこと、大きな枯木、枯枝を事前にチェックしてその近くでは作業しないこと、作業時はできるだけヘルメットを着用することなどの安全対策を心がけていただきたいと思います。

ビオトープ完成

千葉県の里山活動団体県外へ

東京都豊島区立富士見台小学校ビオトープが完成

富士見台小学校のある豊島区は東京23区でも最も緑の少ない地域です。そこで5年生の総合的な学習の時間に「環境プロジェクト」を位置づけ、エコ・環境に関する学習活動を実施しました。この学習が発展する形で児童の発案から平成22年度委員会活動の一つとして作られました。学校全体での環境・エコに関する活動を推進する役割を担っています。

豊島区立富士見台小学校の校庭にビオトープを作りたいという児童の願いを支援する「東京池袋ロータリークラブ」が2012年エコプロダクツ会場で「特定非営利活動法人ちば里山センター」ブースに来られました。しばらくして、センターへ連絡を頂きました。このことから、今回千葉県の里山活動が東京の小学校校庭ビオトープ作りの、木の橋を作ることを協力実施ができました。完成披露の時は区長をはじめ、こどもたちの未来を思う関係者がつどいお祝いをしました。ちば里山センターからは金親理事長、鈴木理事（現副理事長）が参加しました。



里山とわたし

おとずれ山の会 高橋和靖（市原市）

作業を楽しむ

～今あることに感謝しつつ～

篠竹や藤ヅルなどの藪を刈り払って風が通り見通しがよくなる— そのあとにいろいろな草花が芽吹き花を咲かす— 人間という生物が、地球という自然の一隅に存在できていることを思い、「有り難いなあ」と感じるひとときです。

企業人の“卒業”を前に損なった健康が、里山めぐりで回復したということもありました。ほとんど重ならないカミさんとの趣味や行動の面で、共有できる活動を持ちたいと考えたこともあります。また、自然環境の保全という地球人としての役割も気にかかることでした。そんなことから、国有林（木更津・おとずれの森）の入札に応募したのが本格的な里山活動のきっかけになりました。

それから7年がたち、活動フィールドとして近くの天羽田（市原市有林）の2か所が加わって計6haに広がりました。（新規入会大歓迎！）

合言葉は「作業を楽しむ—ゆっくりと手づくりで」。そして、「できる人が、できることを、できるときに」というボランティアの精神を基本に進めてゆきたいと思っています。

地域の行政機関・団体や里山団体等と連携しながら、活動を点から線へ、線から面へと広げてゆければさらにいいのではと思うところです。（副理事長）（写真は、おとずれ山の会代表と筆者㊦）



年会費改定や役員改選など

6月16日 里山センター通常総会



写真④=提案する金親理事長

⑤=総会に参加された皆さん

⑥=祝辞を述べる並木康雄課長

特定非営利活動法人ちば里山センター平成25年度通常総会が、6月16日、千葉市きぼーる多目的室において開催され、以下に関する議案がそれぞれ原案通り承認可決されました。

◆平成24年度事業報告及び平成24年度決算報告 ◆平成25年度事業計画及び平成25年度収支予算

◆認定特定非営利活動法人の資格取得を目指すことについて

◆年会費の改定について◆役員選任について

<選任役員一覧>

今年度は役員全員の改選期に当たるため、定款14条第1項の規定により本総会で選任されたものです。退任された皆様お疲れさまでした。再任・新任の皆様よろしくお願いたします。



(五十音順)

役職	氏名		所属団体等	住所	役員報酬
理事	新井 孝男	再	ちば千年の森をつくる会	君津市	無
理事	伊藤 道男	新	(公社) 千葉県緑化推進委員会	千葉市	無
理事	梅山 雄二	新	千葉県森林組合連合会	船橋市	無
理事	風間 俊雄	再	いちはら里山クラブ	市原市	無
理事長	金親 博榮	再	谷当グリーンクラブ	千葉市	無
理事	黒沢 誠悦	新	北総里山倶楽部	船橋市	無
理事	小西 博典	再	自然観察指導員協議会	千葉市	無
副理事長	鈴木 恵子	再	豊富どんぐりの森	船橋市	無
副理事長	高橋 和靖	再	おとずれ山の会	市原市	無
理事	鶴岡 清次	再	米沢の森を考える会	市原市	無
理事	横山 武	新	安馬谷里山研究会	南房総市	無
監事	那須 捷雄	再	(特非) 住みよい地域づくり推進協議会	成田市	無
監事	南波 悠二郎	新	(特非) しろい環境塾	印西市	無

*高橋明美理事、杉山茂嘉理事、若本重男監事は本総会をもって退任されました。

地域活動・人材育成・資金などの支援

里山活動取組み説明会

総会終了後の「里山活動取組み説明会」では、まず千葉県森林課から「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」について報告された後、「ちば里山カレッジ」「ちば里山活動支援金」「市民活動展（大型ポスター制作）」など、ちば里山センターが推進する事業について説明が行われました。

<地域活動支援> 新たに始まった国の施策で、地域住民が森林所有者、NPO 法人、関係団体等と地域で合意した民間協働組織（活動組織）が実施する里山林の保全管理や資源の活用等、森林の多面的機能の維持増進及び山村の活性化に資する取組みに対し、平成 25 年度～27 年度の 3 年間、一定の費用を国が支援するものです。詳細は今後逐次補足します。

<人材育成支援> 「ちば里山カレッジ」は、県内の里山活動の活性化・継続性を人材育成面から支援するもので、今年度は平成 25 年度地球環境基金の助成を得て実施されます。2 年目からはリーダー養成コースも加わるなど、3 年計画で展開される予定となっています。詳しくは里山新聞 36 号 1 ページと 4 ページをご覧ください。

<資金支援> 「ちば里山活動支援金」は、ちば里山センターが受入れる寄付金等を財源にして正会員団体を支援するもの。金額は 3 万円以内、手続きが簡便で使途にも制約の少ない支援金として本年度試行的に実施するものです。手続きは同封の申込書・実施報告書に基づいて行われます。

<広報支援> 活動団体のポスター（B 全版）の作成を支援するものです。今回は、平成 23 年から進められてきた千葉県環境研究センターとの連携による「市民活動展」にまだ参加していない団体が対象。詳細は事務局にお問い合わせください。

ご質問・お問い合わせは、ちば里山センター事務局まで。

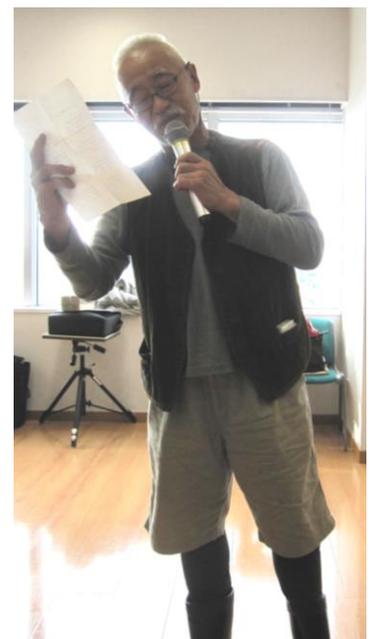
☎0438-62-8895 FAX0438-65-8896 E-mail info@chiba-satoyama.net

締めくくりは交流会・・・熱気あふれて

また、引き続き 16 時から「交流会」が行われました。参加者は、飲み物を片手に日ごろのあれこれを語り合いお互いの懇親を深めあって盛り上がりました。

やはり、里山にかける思いは深く、尽きないと、参加者すべてが実感したひと時でした。

参加者は、「さあ、明日から、また体に気を付けて、里山で頑張ろう！！」と意気高く、各地へ帰っていきま



写真⑤=里山への思いを熱く語り合いました

⑥=自作の「里山の歌」を披露する里山人もおられました

平成 25 年度地球環境基金助成事業「ちば里山カレッジの開催」
里山ボランティア養成コース カリキュラム

講座 No.	開催日 会場	講座	講師
第 1	25. 9. 14(土) 千葉市 きぼーる	AM;ちば里山カレッジ入学式&オリエンテーション	
		PM;講義&ワークショップ「里山の保全とボランティア活動」	
		講義 「里山活動の実践の 10 年 振り返りと今後の展望」	ちば里山センター理事長 金親博榮
		「里山条例制定の社会的背景と今後の展望」	(元)千葉県森林課長 伊藤道男
		W.S. 「里山ボランティア活動の中の自分探し」	ふなばしネイチャーゲームの会 庄司恵理子
第 2	25. 9. 28(土)	フィールド研修(バスツアー) 「千葉の里山は今！」 千葉県中部地区里山活動団体のフィールド 4 か所	千葉県農林総合研究センター森林研究所 主席研究員 福島成樹
第 3 バス移動	25. 10. 12(土) 東京大学千葉演習林	講義&フィールド研修「自然環境問題」 地球温暖化・生物多様性と里山の果たす役割	東京大学千葉演習林長 山田利博 千葉県森林インストラクター会
第 4	25. 10. 26(土) 千葉県緑化推進 拠点施設 (袖ヶ浦市)	講義「森林・里山についての知識の習得 1」 講義 「行政からみた里山ボランティア活動」	千葉県森林課森林政策室 副主幹 澤口晶子
		「千葉県の森林と里山の特徴」	千葉県農林総合研究センター森林研究所
		「里山の管理技術 ①広葉樹林」	主席研究員 福島成樹
		「千葉県の津波災害と再生」	(元)千葉県森林課長 梅山雄二
		里山活動団体の紹介 「一緒に里山ボランティア活動をしませんか」 市原市・木更津市・君津市内活動団体の紹介	各活動団体代表
第 5	25. 11. 9. (土) 千葉県緑化推進 拠点施設 (袖ヶ浦市)	講義「森林・里山についての知識の習得 2」 講義 「里山の管理技術 ②人工林」	千葉県農林総合研究センター森林研究所 主席研究員 福島成樹
		「里山の管理技術 ③竹林」	
		「里山の病虫獣害」	技術士(森林部門)樹木医 石谷栄次
		講演 「千葉の美しい自然・里山とそこに生息する生きもの」	市原市環境学習講師 加藤恵美子
		里山活動団体の紹介 「一緒に里山ボランティア活動をしませんか」 袖ヶ浦市・千葉市・富津市内活動団体の紹介	各活動団体代表
第 6	25. 11. 23(土) 千葉県緑化推進 拠点施設 (袖ヶ浦市)	講義&フィールド研修「安全な里山整備作業の為の知識と技術の習得」 講義 「安全配慮義務・リスクアセスメントと危険予知」 実習 「刈払機、チェーンソー等の正しい使い方」	千葉県森林組合安全指導員 木村正敏 千葉県森林組合安全指導員 木村正敏 房総森輪会 岡部正史
第 7	25. 12. 7. (土) 森林資源コンサーブ	里山体験活動1 「フィールド研修 里山整備作業実習」 森林整備作業実習&チェーンソーを使った伐採作業実習	千葉県森林組合安全指導員 木村正敏 房総森輪会 岡部正史
第 8	26. 1. 18. (土)	里山体験活動2 「フィールド研修 整備された里山の活用」 1. セラピープログラムの体験 2. 自然観察会他	農学博士 白井珠美 千葉県森林インストラクター会
第 9	26. 2. 1. (土) しろい環境塾	里山体験活動3 「フィールド研修 地域活動」 フィールドミュージアムと地域とのつながり	NPO 法人しろい環境塾理事長 河合 泰
第 10	26. 2. 22. (土) 千葉市 きぼーる	ちば里山カレッジ卒業式 自主研修会・懇談会 「里山に活かす我が活力」	ちば里山センター理事 新井孝男

その他:インターンシッププログラム「里山活動の実践」

本人が希望する里山活動団体に派遣し、1 日以上の実体験研修を行う(必修) 移動などは本人手配
本人の希望により複数日且複数派遣先団体を紹介する

注:講座は各回とも午前9時から午後 4 時までとする。

バス移動の集合・解散は JR 長浦駅前又は実習地最寄の JR 駅前とする。

特定非営利活動法人 ちば里山センター

TEL0438-62-8895/FAX0438-62-8896

<http://www.chiba-satoyama.net/>

e-mail:info@chiba-satoyama.net

